

伝統を受け継ぎ、末永く島田大祭を守りたい

3年に1度の島田大祭を前に、祭りの言い伝えを記録した「島田の帯まつり練る・舞う・奴振り・踊る」が、島田大祭史研究会から出版されました。会長の堀江さんは、次世代に大祭の文化を残そうと、伝承に取り組んでいます。

【言い伝えを1冊に】

40年以上前から、大祭に参加してきた堀江さん。時代とともに、祭りのあり方や、それを支える人たちの変化を感じているといいます。

「昔と比べて、祭りに参加する若い人がだんだん減っています。原因はさまざまですが、自分たちを振り返ってみると『これまで、大祭のことを若い世代にきちんと伝えてこれたのだろうか』と疑問に思いました。そこで、大祭の関係者から話を聞く講座「ふるさとの民俗を語る会」を約12年間にわたり開催。会は盛況で、多くの人が関心を持って聞いてくれました。そこで、語り手

の話を、1冊にまとめたものを出版しようと考えました。祭りの長い歴史の中でも、初めての試みでした」

【それぞれのプライド】

島田大祭が奇祭と呼ばれ

携わってきましたが、他街がどんな価値観で祭りに取り組んでいるのか、全く知りませんでした。しきたりや課題など、語る会で初めて聞く話も多く、各街でこんなに違うものかと驚きましたよ。これが



島田大祭史研究会・保存振興会 会長
堀江良則さん(本通一丁目)

る由縁は、「街」というそれぞれの町内が強いこだわりを持って祭りを運営し、「他街と折衝できるのは応接権を持つ人だけ」という点ではなにかと堀江さんは考えます。「私はずっと一街で祭りに

島田大祭の大きな特徴ではあるけれど、『このままでは担い手不足という全街共通の課題解決は難しい』と感じました」

【次世代に伝承するために】

堀江さんは、将来の担い手

を確保するため、今何ができるか考えるきっかけとして、今回の出版を決心しました。

「この本は、伝承のヒントになるようにと書いたもの。担い手不足は、一朝一夕で解決するものではないし、私一人で解決できる問題でもありません。この本を読んだ多くの人がアイデアを出し合って、一つずつ実行し、少しずつ効果があればうれしいです」

元禄時代から続く大祭を現代で続けるためには、人も祭りも変わらなければならぬ、と堀江さんは話します。

「今は市内の学校に出向き、生徒の大祭参加をお願いしたり、出前講座を行ったりしています。子どものうちから参加することで、地域との関わりを持つ良いきっかけになりますよ。時代に合わせ、伝統として受け継ぐところと、変えていくところを選び、次世代に何を残すべきかを、みんなで考えていきたいですね」

伝統の帯や衣装が華やかな島田大祭。末永く祭りが続くよう、堀江さんは将来を見据え、次世代に魅力を伝えていきます。



Shimadajin File #92

島田
Story 人

第108回島田大祭
一街屋台上踊りの様子